

発展途上国の農村地域における地域人口分析

Analysis of Rural Demographics in Developing countries

丹羽孝仁(帝京大学)

Niwa Takahito (Teikyo University)

niwa@ucre.teikyo-u.ac.jp

本報告は、発展途上国の農村地域を対象とする地域人口研究を整理し、今後を展望することを目的とする。そのために、報告者がフィールドワークを行っている東南アジアにおける人口地理学に関連する研究蓄積を基に議論する。

発展途上国の農村地域では、人口転換そのものやそれに伴う農村空間の変容が長らく議論されてきた(例えば、高橋(1997))。ただし、これらを議論するための土台となる小地域の人口データが蓄積されていなかったり、センサスデータが実態を示す訳ではないため(末廣 2017)、集落単位の悉皆調査によってデータ構築から行われることが多い(口羽 1990 など)。近年では、(保健)人口のデータベース構築が世界各地で行われ、地域人口の分析に活用されている(西本ほか 2014 など)。さらに、農業や賃労働、都市への移住などに関連づけることで、農村地域の人口動態が詳細に把握されてきた(口羽 1990, Rigg 2001, 舟橋・柴田 2007)。

農村地域の人口動態が家族計画や生業、人口移動と密接に関係するがゆえに、時間軸の変化に大きな関心が払われている。伝統的な手法では、長期間にわたる調査によってデータの蓄積が行われてきた。これに対し、西本(2011)の人口復元手法は、過去に遡るほど精度が落ちるものの、短期間の調査でデータを構築することができる。報告者も参加する研究プロジェクトでは、ラオス北部の農村における民族別の人口動態を明らかにした(丹羽・西本 2021)。

さらに、人工衛星画像を用いた農地の時空間分析も広く行われるようになってきている。植生や土地利用の分類、さらには都市環境の把握にも人工衛星画像は用いられるが、農地の収量分析・予測(Raksapatcharawong et al. 2020)など活用は拡がりをみせている。今後の展開の可能性のひとつに、人工衛星画像のさらなる活用が挙げられる。小地域の人口データ構築には多大な労力と時間がかかる。Sutton(1997)によって夜間光の強さが人口や経済活動指標と相関関係にあることが指摘されて以降、世界各地で研究が行われており、発展途上国においても Keola et al. (2015)などによって実証的に分析されている。

いまひとつに、地域人口の空間的要素である人口移動に関わる新たな概念の導入が農村における地域人口分析に新たな可能性をもたらさう。Greiner and Sakdapolrak(2013)によって導入されたトランスローカルの概念は、農村を農村のみで捉えることの限界を示している。例えば、Rockenbauch et al. (2019)は、トランスローカルの概念と社会ネットワーク理論を用い、タイ農村の世帯が労働・助言・金融の各面で支援ネットワークの地理的分布と社会構成との関係性を明らかにしている。報告者は、ラオス-タイでの国際人口移動の中には国境を越えて移動してもなお出身村との関係性を強く持つトランスローカルな人口移動を明らかにしている(丹羽ほか 2021)。農村地域の人口動態を理解しようとする際に、もはや農村地域だけを対象に分析することの限界を示している。なお、都市-農

村間の境界があいまいになってきている点は、都市研究の側面から地球規模での都市化を議論するプラネタリーアーバニゼーションの概念が出てきたことと共通している(Brenner 2014)。

農村を理解するためには都市を理解する必要があり、都市を理解するためには農村を理解する必要がますます高まっている。グローバル経済の影響を受け、変容を続ける発展途上国の農村地域において地域人口を分析するためには、分析視角や分析方法をこれに対応させていく必要がある。

【参考文献】

- 口羽益生, 1990, 『ドンデーン村の伝統構造とその変容』, 創文社。
- 末廣昭, 2017, 「タイ——バンコク・メガリージョンの誕生」, 末廣昭・大泉啓一郎編, 『東アジアの社会大変動——人口センサスが語る世界』, 名古屋大学出版会, pp. 141-172.
- 高橋眞一, 1997, 「タイ東北部農村の人口転換——二つの人口レジーム」, 『人口学研究』第20巻, pp. 49-63.
- 西本太, 2011, 「ラオス少数民族の過去50年の人口復元」, 『人口学研究』第47巻, pp. 126.
- 西本太・金子聰・蔣宏偉・門司和彦, 2014, 「ラオスの保健人口サーベイランスシステムからみたラオスの人口転換」, 『民族衛生』第80巻第1号, pp. 54-59.
- 丹羽孝仁・中川聡史・高橋眞一・西本太, 「ラオスの農村からタイ、バンコクへの国際労働力移動——出身村との関係に注目して」, 『年報タイ研究』第21号, pp. 17-30.
- 丹羽孝仁・西本太, 2021, 「ラオス縁辺部の農村における人口移動の諸相——ルアンパバーン県H村を事例として」, 『人口学研究』第57巻, pp. 21-32.
- 舟橋和夫・柴田恵介, 2007, 「東北タイ農村ドンデーン村における村落経済の変動」, 『龍谷大学社会学部紀要』第30号, pp. 55-71.
- Brenner, N., 2014, *Implosions/explosions: towards a study of planetary urbanization*, Jovis.
- Greiner, C. and Sakdapolrak, P., 2013, “Translocality: Concepts, Applications and Emerging Research Perspectives”, *Geography Compass*, 7-5, pp. 373-384.
- Keola, S., Andersson, M. and Hall, O., 2015, “Monitoring Economic Development from Space: Using Nighttime Light and Land Cover Data to Measure Economic Growth”, *World Development*, 66, pp. 322-334.
- Raksapatcharawong, M., Veerakachen, W., Homma, K., Maki, M. and Oki, K., 2020, “Satellite-Based Drought Impact Assessment on Rice Yield in Thailand with SIMRIW-RS”, *Remote Sensing*, doi:10.3390/rs12132099.
- Rigg, J., 2001, *More than the soil: rural change in Southeast Asia*, Prentice Hall.
- Rockenbauch, T., Sakdapolrak, P. and Sterly, H., 2019, “Beyond the Local: Exploring the Socio-Spatial Patterns of Translocal Network Capital and Its Role in Household Resilience in Northeast Thailand”, *Geoforum*, 107, pp. 154-167.
- Sutton, P., 1997, “Modeling Population Density with Night-Time Satellite Imagery and GIS”, *Computers, Environment and Urban Systems, Remote Sensing of Urban Systems*, 21-3, pp. 227-244.